ゆすはら 森と水の物語

草木が水を吸うように
私たち人も同じ生命を
さずけられ、同じように水を飲む。
生きていくためにもっとも大切な
もののひとつが水。
その水をみがき、育み たくわえる
のが森。
天からまいおりた 水のこどもが
ゆたかな森の土にしみこんで
ある日、一滴のしずくとなり
あるところで泉から こんこんと
わき出し、はるかに長い
水の旅をはじめる。

水のこども みくまりちゃん

一滴の雨、一枚の葉っぱ、一匹の微生物…
何ひとつ余計なものがなく みんな何かの
役目をもち、すべてが結びつき、環(わ)に
なってつながる。
森の中で、川の中で、土の中で、大気の中で
すべての いのちは つながって
とぎれることなく巡っている。

脱藩の道

菲ヶ峠

源水点
水がうまれ水の旅が始まる
スタート地点。
天から降った一滴の水が
川を流れ 海を漂い
太陽に照らされて天に昇って
雲となり、再び雨となる
この水の循環サイクルは
数万年にわたる
壮大な大河ドラマ
だ!

四国カルスト

海 竜王様の参拝
海での安全や豊漁を祈願する
ために中村の下田をはじめ、宇和島や
中国地方からの参拝もあった。
海の神を源流部の山の中に祀る
ことは、はるか昔から海と森が
結びついていることを知っていた
ことを物語っている。
森は海の恋人。
まるで遠距離恋愛みたいな
関係だ♡

海の神様

竜王様

四万川

山
山の神様である大山祇命をお祀りしている三島神社は県内19社のうち
5社までもが樹原に集中している。
古より、この地の人々が大山祇命を
崇め 立派な社殿を建立し、神楽を
奉納して崇拝し続けるということは、山に
対する畏怖の念や感謝の気持ちが外の
地域より、ことさら色濃いという証では
ないだろうか。

天狗高原

樹雨(きさめ)
霧が葉っぱに
たまって森の中に
しずかにおちる
数ある雨の中で
もっとも静かだ

不入山
裏源流

四万川が
四万十川の
源流といっても
異和感ない。

四万川

ほんの半世紀ほど前まで、山は
人々のくらしのよりどころであり
自然や景観、歴史、文化、信仰に
おいても中心にあった。
しかし現在、山里からはしだいに
人がいなくなり、山と人々の
関わりは希薄になりつつある。

越知面

樹原川

水源林づくり協定

芹川
せるかわ

カタクリ自生地

レインボウバージョン
みくまりちゃん

旅人

水滴の中に虹をとじこめることもできる

森を歩く

森は小さな命の集合体。
地球(ちたま)や宇宙の縮図。
木や草や虫、目に見えない
土の中の微生物。
たくさんの命あるものが、それぞれの
役目をはたしながら巡っている。
小さな生物のたちに、やさしく
謙虚な気持ちで、心の目を
澄ましてみれば、きっとみんなが
いろんなことを教えてくれる。
森が重ねた長〜い年月の
一瞬の光輝きを 体中で感じて
みよう。

九十九曲峠
OAAOセラピーロード

森の生き物の
いのちが天に昇るとき
森の上空に虹が
あらわれる。

居間を深い山に囲まれている
津野山郷。
集落の入口には茶堂があり
遠路やってくる旅人を福の神として
手をつくもてなしてきた
旅人は物や情報をもたらして
くれる神「客人神」(まろうどがみ)
として大切にしてきた文化が
残る。

先人が石を積み
水をくんで拓いた
棚田

人工林は日本人が
おこなった大事業。

樹原

川には「瀬」があり「淵」があり
呼吸をしながら流れることで
川の生きものたちがくらしている。
コンクリートでおおわれたり
家庭排水で汚れてしまうと
生き物がどんどん姿を消す。
カワウソやカッパたちも
どこか遠いところへいってしまった。

夏、電灯に集
まってくる羽虫や
ビルビルは、川の中で
幼虫をおごし、
羽化して外に出る
ことで川の汚れを
とりのぞいて
くれている。

高研山

町の鳥 ヤマガラ

樹原の森林率は91%
世界にほこる森の国だ。
手入された山や天然林に
降った雨はミネラルや養分を
いっぱい含んで栄養まんてん。
プランクトンや川魚を育て
四万十川〜太平洋に
ゆたかな恵みを
もたらす
「森と川のゴールデンコンビ」だ!!

初瀬

北川川

マツタケ
これい〜

鷹取山

樹原郷土の森
四万十の太古の姿を
今に伝える貴重な森

ひとこと毎日のように
マツタケばかり親父
がとってくるので
子どもは「またマツタケ」
と言った逸話が
のこるほど、豊かな
山であった。

モミの保護林

ニホンジカの増加が深刻な社会
問題となっている。
ナワバリをもたず、群れで行動し
草から木の皮、農作物まで被害を
およぼしている。
自然のバランスがひとつでも崩れると
とりかえしのつかない破綻が広がる という
シカからの警鐘に聴こえる。
「害獣」として扱われているが
人の命も野生生物の命も重さは
同じはず。
お互いの命を尊重しあって共生できる
世の中をとりもどそう。

祝 山の日
ヤマ
カワ

昔から暗号の定番は
「山」といえば
「川」とこたえる。
山と川はこんなところでも深い関係。

八百とどろ

久保谷川

久保谷山
風景林

「おんどろとどろは
鮎の波」と唄われ
るほどたくさんの
鮎がいた。

2016年8月11日から「山の日」が祝日となる。
これで祝祭日のないのは6月だけになる。
7月20日の「海の日」があるから、次は6月に
「川の日」がきっと制定されるはずだ♪

久保谷セラピーロード

春分峠
カシ、シイ、ツバキ
サカキなど。

アカガシと
シャクナゲの森

松原

夏には澄んだ川で泳ぎ、秋には野山をかけめぐり
冬には満天の星空を仰ぎ、そしてまた春がめぐってくる。
自然の中で遊びすごせる子どもたちのまわりには
きっと自然の「精」がよりそって、見守り、励まし
なぐさめてくれる。
こどもの頃に出会った自然の「精」たちは
大人になっても心の支えとなりつづけてくれる。
こどもの季節にいっぱい外で遊んでね。

照葉樹林の
木々の葉っぱが
太陽光を乱反射
してひかりかがる
光景は、森の中にい
海のさざ波を
連想させる。

海辺でくらす人、都市でくらす人
里でくらす人
時々山へ目を向けて、できたら
足をはこんで下さい。
山の空気、森の風、土の感触。
いろんなことを感じます。

森を歩くということは、ふかふかの
腐葉土が心の中の汚れや
怒りや悲しみを吸いとってくれて
生きる活力を与えてくれます。

自然の中に身をゆだねると
我欲が消えて、気持ちがとっても
やすらぐということを感じ
ます。

蛇行が多くの
瀬や淵をつくり
魚たちの住みかと
なっている。

樹原の木はユスノキ
太陽の光を反射してキラキラ光る
照葉樹のひとつ

四万十川流域の最上流にある
町に、森の土をつくる広葉樹の
名前がついているということに
とても深い意味がある。

「柞」広葉樹の古語で「はばそ」「ゆす」

樹原川はちょっと前は
「津野川」と呼ばれていた。

その昔
山から伐り出した
木材は、いかだに
組んで中村の
下田まではこんでいた。

木の神 スサノオノミコト

2014.7.7